

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和6年6月4日

三田市議会議長 森本 政直 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	市民の会	代表者	
		議員名	肥後 淳三
派遣者氏名	肥後 淳三		
視 察 先	川崎市こども夢パーク(川崎市高津区下作延5丁目30-1) 戸田市役所(戸田市上戸田1-18-1)		
調 査 事 項 (調査目的)	川崎市:子育て支援施策「子ども夢パーク」、子どもの自由な発想で遊び、学びをつくる施設の見学とその考え方 戸田市:戸田型オルタティブ・プラン(総合的な不登校対策)		
日 時	令和6年5月15日(水曜日)~令和6年5月16日(木曜日)		
支 払 金 内 訳	科 目	支 出 額	摘 要
	宿泊料	13,500	1泊
	日 当	6,000	@3,000×2日=6,000
	鉄道賃 (モルール)	32,500	別添の行程表(精算)表参照
	航空賃		
	バス賃	400	
	船 賃		
	タクシー		
	その他	2,444	視察先への手土産(5,832円÷3) 戸田市資料代(1,500円÷3)
合 計	54,844		
備 考			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。
個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和6年6月4日

三田市議会議長 森本 政直 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	
		議員名	肥後 淳三
派遣者氏名	肥後 淳三		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	川崎市：子育て支援施策「子ども夢パーク」、子どもの自由な発想で遊び、学びをつくる施設の見学とその考え方 戸田市：戸田型オルタティブ・プラン(総合的な不登校対策)		
日 時	令和6年5月15日(水)～令和6年5月16日(木)		
視察先対応者	川崎市 川崎市子ども夢パーク 副所長 千葉 志門 戸田市 教育委員会 教育長 戸ヶ崎 勉 教育委員会教育政策室 戸田市立教育センター所長 伊藤 和三 議会事務局 小肥 明広		
(調査結果の概要及び所見)別紙でも可 *川崎市、戸田市視察資料は、肥後の報告書でご参照ください。 *調査結果及び所見は、別紙1川崎市、別紙2戸田市			

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

別紙1 (川崎市子ども夢パーク視察報告)

1 視察先と視察目的

視察先：川崎市子ども夢パーク

目的：子どもの居場所である「川崎市子ども夢パーク」は、子どもの自由な発想での遊びと学びの場を通じた成長があると聞いている。今後の三田市での導入を模索する。

2 内容

(川崎市子ども夢パークができるまで)

2000年12月に、「子どもの権利に関する条例」が定められた。

この条例には、子どもが安心して生きる権利、自分を守られる権利などが盛り込まれている。そのような中、高津区下作延（津田山駅から徒歩5分）の場所に立地していた工場（敷地面積約9,872㎡）の跡地が出現した。

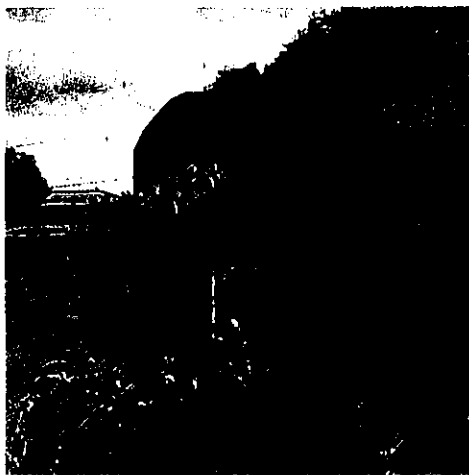
子どもの権利に関する条例第27条（子どもの居場所）では、①市が居場所を確保すること②居場所での活動を市民や関係団体と連携を図り支援する。とされており、この跡地に子どもの居場所を確保することに決定した。

当時の児童や生徒から意見を募る中で2003年に「川崎市子ども夢パーク」が誕生した。
(現地見学)

川崎市子ども夢パーク（以下「夢パーク」という）の玄関口に子どもの権利条例第27条が大看板に描かれていた。(写真①)

敷地内の建屋や滑り台など人工物を除けば、そのほとんど土がむき出しとなっている。

「遊び場」で遊ぶ子どもとスタッフの姿がまず目に飛び込んできた。なんと、スタッフも子どもたちも「泥んこ」状態である。(写真②)



左写真①
第27条
条文

右写真②
泥まみれ
の子ども
とスタッ
フ



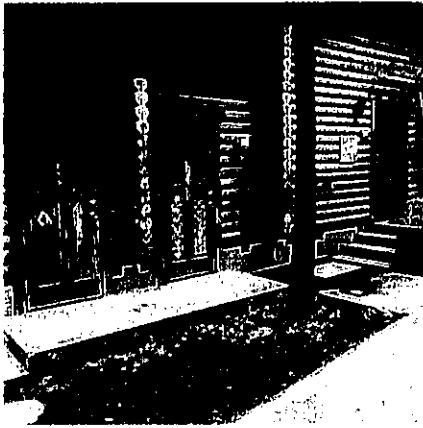
パーク内には、滑り台(写真③)、池(写真③)、ブランコ(写真④)、ログハウス(写真⑤)、築山(写真⑥)、全天候型スポーツ広場(写真⑦)等が配置されている。



左写真③
滑り台と池
水は、井戸水
を活用



右写真④
ブランコ



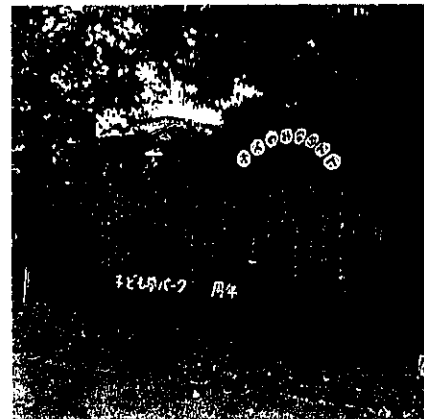
左写真⑤
ログハウス



右写真⑥
築山



左写真⑦
全天候型ス
ポーツ広場



右写真⑧
大人の方へ
の注意書き

この夢パークでは、写真⑧の通り、子どものやりたいことをゆるやかな規制でおこなうことができる。

(夢パークの運営)

対応者：認定NPO法人フリースペースたまりば

川崎市子ども夢パーク 副所長 千葉 志門氏

夢パークは、2003年にフリースペースたまり場に委託運営され今日に至っている。

この間、不登校児童・生徒は増え続けており、2023年度に夢パークに来場した子供は、72,052人となった。

夢パークでは、「火をおこす」「端材を用いてつくる」「水で遊ぶ」「泥で遊ぶ」ことができる。通常市内では、火をおこす場所はない。火をおこす体験は、周囲の住居地域からの苦情などに配慮して週3回開催しているが、基本大人は手を出さない。火をおこす体験は、火をおこす難しさ、火傷などの経験を通じて「火」そのものの怖さなどが習得できる。

年に一度、端材を活用して「子ども夢横丁」を開催し、お店作りをしている。

「子ども夢横丁」は、一種のお祭りであり周囲の住民や保護者、子どもたちが来場し、夢パークに通っている子供たちがつくる出店で物販している。物販内容も子どもたちの自主性に任せている。

販売された売上金の10%は、夢パークで今後必要となる物品の購入費に充てているが、この物品も子供たちが決定している。

(フリースペースえん)

NPO法人が運営する不登校児や生徒のフリースペース「えん」について確認した。

「えん」に参加する児童・生徒は、非行・障がいの有無を問わず参加できる場所である。

川崎市においても、外部にあるフリースクールは少ない。

全国では、フリースクールに通う児童らは、3万円以上経費が必要であるが、ここは、昼食以外、原則無料で通うことができる。

運営経費については、年間9,000万円が必要であり、アルバイト2名も雇用、非常勤8名、常勤6名で運営にあっている。

3 所見

子ども夢パークでは、いろいろな課題を抱えた子どもたちが通っている。

特筆すべきは、現在150名が在籍し、年々増加する不登校児・生徒らの居場所になっている。子どもらは、クラス分けもなく小学校低学年から高校生まで（中には、社会人となった方）が、子どもらのつくるルールで学び育っている。

子どもの育ちについて聞いてみたが、「えん」のスタッフとの人間関係構築、さらにこのフリースペースに通いながら学校へ通い始めた子もおり、通信制高校、定時制高校に通う子も出ている。

コロナで緊急事態宣言が出された時も夢パークを閉めなかったことや食事も止めなかったことは、誰のための夢パークなのかを考えると、主旨貫徹している。

運営については、年間予算の9千万円では、なかなか、運営スタッフや非常勤スタッフ

の生活を支えるためには、ぎりぎりの予算であり、継続した人材の確保が課題であるとのことであった。

川崎市だからここまでできるとの思いもあるが、不登校児童や生徒のフリースペースの居場所づくりを設置することは、多くの自治体に求められていることは言うまでもない。

夢パークが掲げている「子どもたちの自主性を重んじる」運営方法については、どの自治体も学ぶべき点があると思う。

(肥後淳三)

別紙2（戸田市視察報告）

1 視察日と視察目的

視察日:令和6年5月16日(木)

目的:戸田型オルタナティブ・プラン(総合的な不登校対策)について

相手方:教育委員会 教育長 戸ヶ崎 勉

教育委員会教育政策室

戸田市立教育センター所長兼主任指導主事 伊藤 和三

2 調査概要

【戸田市オルタナティブ・プラン(総合的な不登校対策)について】

○戸田市の概要

・人口14万人 ・小学校12校、中学校6校 ・荒川流域

○戸田市のこれまでの教育

・人口が今でも増加している(児童・生徒も増加)
・学力・体力・非行問題・不登校が課題であり、教職員の希望者がいない
・多くの授業が教師主導型

○今の戸田市の教育

・学力は県下トップに
・非行問題の減少、しかし不登校は増加
・快適なLAN環境を実現

○戸田市の教育は何が違うのか

*コンセプト:経験と勘と気合(3K)から「客観的な根拠」への脱却⇒科学的なエビデンスを
基にし、優れた教師の指導力を言語化・可視化・定量化して若手教師に効率的・効果的に
伝承していく。そのために教育データを活用する。

○教育を科学する当面の方向性

3つの科学 ⇒ ①状業を科学する ②生徒指導を科学する ③学級・学校経営を科学する。
特に②の生徒指導を科学するでは、不登校等の早期発見・対応を試行し、「ばれっとら
ぽ」での不登校対策・支援調査研究・評価を実施している。

○学校の意識改革

社会構造の変化を各学校で共通認識する。また、児童や生徒が出ていく社会を知り、
学校と言う空間が未来を感じられる空間にして行く。

○Society5.0時代の教育展望について

・ペーパーテストは、限られた時間内で記憶や思考を頼りに正解を求めているが、現
実社会においては、これと同じ状況になることはまずない。解答に正解はなく実社会
では、周りの人と協力しながら正解を導いている。

・創造力を伸ばすプログラム PBL の基盤づくり

○直面する様々な教育課題

- ・様々な理由でとりのこされている子どもたちに気づくべき
- ・貧困、いじめ、虐待、不登校、外国出身などの事情からくる落ちこぼれは、「誰一人取り残さない教育」に向けた取り組みが必要

○エビデンスに基づく教育施策の推進

- ・教育におけるデータは、成果のある一部のみを定量化しているに過ぎない。専門家である教師は、あくまでも参考値として解釈して指導を行う。
- ・教育の最前線は、教室の授業である。なので、改善策も授業の中に存在している。

○戸田市の教育総合データベースの取組み

- ・令和4年度デジタル庁・令和5年度子ども家庭庁実証事業の実施団体に採択
- ・児童や生徒一人ひとりのデータを AI が分析し、不登校など SOS の早期発見や支援に繋げている。

(戸田型オルタナティブ・プラン)

- ・学校には、義務と禁止ばかり。そうではなく、「全ての子どもたちが、楽しいこと、やりたいことが沢山あり、安心して学べる場所に」⇒ 登校したい魅力ある学校に！
- ・多様な学びの場が選択できる
 - ① 教室内ぱれっとルーム ② 戸田翔陽高校いっぽ ③ メタバース ④ 教室さわやか相談室 ⑤ 教育支援センター(すてっぴ+西すてっぴ)
- どの場面でも複数の場所でも活用が可能
- *メタバースは、仮想空間の教室に入り込み同級生などとの交流や先生方との意見交換に繋がっている。

(戸田市不登校について考える会)

- ・戸田市では、年に一度「不登校について考える会」のシンポジウムを開催している。
一部：不登校児・生徒に関する講演 二部：シンポジウム 三部：相談会

4 所見

戸田市では、教育長の戸ヶ崎氏がお越しになり、戸田市で取り組んでいるオルタナティブプラン全般についてご教示していただいた。

特筆すべきは、教師の経験や勘からなる授業ではなく、若い教師にも繋いでいけるようにエビデンスを根拠にした授業に取り組んでいることである。

また、不登校児童に対しては、校内ぱれっとルームの確保、教育支援センター、さわやか相談室など子どもの実情に応じた居場所が確保されている。

なお、AIに基づくデータ分析で子どもからの SOS 発信を掴み、不登校の事前察知、支援に繋いでいる状況は一步先を行く取り組みである。

三田市でも教育支援センターが設置されて、今後 AI の研究が進むものと思われるが、先進市戸田市の取組みも大いに参考にできるとされる。

(肥後 淳三)